

平成24年度 岐阜県高等学校バスケットボール新人大会  
 兼 東海高等学校バスケットボール新人大会県予選会  
 大会最終日：平成25年2月3日(日)  
 会場：大垣市総合体育館

## 男子の部

<審判>

5位決定戦 大垣養老 77  $\left[ \begin{array}{l} 26 - 13 \\ 23 - 15 \\ 11 - 15 \\ 17 - 20 \end{array} \right]$  63 斐太 宮崎泰彦・伊藤潤

決勝リーグ 美濃加茂 84  $\left[ \begin{array}{l} 8 - 6 \\ 19 - 16 \\ 25 - 16 \\ 32 - 4 \end{array} \right]$  42 富田 大江裕之・大豆村斉  
 (2勝) (2敗)

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。序盤は両チームともディフェンスを頑張り、点が入らないままゲームが進む。富田が⑤桑原、④真鍋の速攻で先手を取るが、美濃加茂は⑤坂之下の3点シュート、⑥武藤のリバウンドシュートで逆転する。第1ピリオドは美濃加茂8-6とロースコアのまま終わる。

第2ピリオドに入ると、美濃加茂はボールをうまくコントロールして、⑦堂藤のスティールをきっかけに、⑤坂之下のジャンプシュートやドライブ、⑥武藤、⑧海津のゴール下シュートなどテンポよく得点してリードを奪う。富田も④真鍋のドライブ、⑤桑原のジャンプシュートで入れかえすが、シュートが思うように決まらず追い上げきれない。前半を終わって美濃加茂が27-22と5点リードで折り返す。

第3ピリオド、美濃加茂はインサイドを支配し、⑥武藤、⑧海津がゴール下へ攻め込むと、④木村、⑤坂之下のシュートも決まり始め、勢いよく得点を重ねる。富田も④真鍋、⑤桑原が必死の追い上げを見せる。美濃加茂が52-38とリードを広げ、最終ピリオドへ。

第4ピリオドに入ると、美濃加茂はオールコートマンツーマンを仕掛けて相手にプレッシャーを与え、攻めては⑦堂藤がこのピリオドだけで3点シュートを含む10得点の活躍で一気に勝負を決める。最後はベンチメンバーを出場させる余裕を見せて美濃加茂が84-42で勝利し、決勝リーグ2勝目をあげた。富田は第4ピリオド開始から7分間ノーゴールが続き、反撃の糸口を見いだせなかった。(山川雄司)

決勝リーグ 岐阜農林 91  $\left[ \begin{array}{l} 18 - 8 \\ 17 - 10 \\ 32 - 2 \\ 24 - 10 \end{array} \right]$  30 中津川工 神山元秀・松浦由和  
 (2勝) (2敗)

両チームともにハーフコートマンツーマンで始まる。岐阜農林はインターセプトやディフェンスリバウンドから、④吉田、⑬松岡が速い展開でパスを回し、⑤田中を中心に得点していく。中津川工は⑥佐藤や⑨木村がドライブするが、相手の厳しいディフェンスに対し得点が伸びない。第1ピリオドは岐阜農林が18-8とリードする。

第2ピリオド、岐阜農林はオフェンスリバウンドからチャンスを増やし、⑧福永、⑨小池のシュートで着実に得点を伸ばしていく。中津川工はメンバーを代えながら、⑬市協がゴール下や外角のシュートを決める。前半は岐阜農林が35-18とリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜農林は前線から激しくディフェンスのプレッシャーをかけ、相手のミスを誘う。また、⑫酒井が4本の3点シュートを含む14得点をあげるなど、一気に引き離し67-20と大量リードを奪う。中津川工は相手ディフェンスに苦戦し、このピリオドをわずか2得点で終える。

第4ピリオド、岐阜農林はベンチメンバーに代えながらも⑩森、⑭小椋が3点シュートを決め、⑩浅村がオフェンスリバウンドでチャンスを広げて点差をつけていく。最後は91-30と力の差を見せつけて、岐阜農林が決勝リーグの2勝目をあげた。敗れた中津川工も⑯佐々木がリバウンド、シュートと粘りを見せるが、点差を縮めるまでには至らなかった。(高木大志)

決勝 リーグ	岐阜農林 (3勝)	77	$\begin{bmatrix} 19 - 16 \\ 31 - 17 \\ 14 - 19 \\ 13 - 11 \end{bmatrix}$	63	美濃加茂 (2勝1敗)	室谷伸治・名越龍男

ともに2勝同士で迎えた決勝リーグ最終戦。両チームともマンツーマンでスタートする。岐阜農林は⑥寺内の連続ジャンプシュート、④吉田、⑧福永の速攻でリードを奪う。美濃加茂は⑧海津、⑥武藤のリバウンドシュート、④木村のドライブで追いかける。第1ピリオドは岐阜農林が19-16とリードを奪う。

第2ピリオド、美濃加茂はゴール下で頑張り、⑧海津、⑥武藤のリバウンドシュートで4分には同点に追いつく。ここで岐阜農林は⑮野原を投入してオフェンスのスピードを上げる。さらに投入した⑫酒井がこのピリオドだけで4本の3点シュートを決める活躍を見せ、一気に20点のリードを奪う。美濃加茂はディフェンスを1-2-2マッチアップゾーンに切りかえ、⑧海津のゴール下シュートで追い上げを図る。前半は岐阜農林が50-33とリードして折り返す。

第3ピリオド、岐阜農林は頻りにメンバーを代えてスピードあるオフェンスを展開し、⑤田中、④吉田がシュートを決めリードを譲らない。美濃加茂も⑤坂之下のドライブ、⑧海津のシュートで一時は8点差まで追い上げるが、なかなか届かない。一進一退の攻防のまま岐阜農林が64-52とリードして最終ピリオドへ。

第4ピリオド、岐阜農林は④吉田のドライブや⑧福永のジャンプシュートなどでリードを保った。最後は77-63で岐阜農林が決勝リーグ3戦全勝として、6年ぶり31回目の優勝を飾った。美濃加茂も④木村のドライブ、⑦堂藤の3点シュートで必死に追い上げを図った。しかし思うようにシュートが決まらず、追い上げきれなかったが、最後までディフェンスを頑張り、ボールを追い続けた健闘ぶりを讃えたい。(山川雄司)

決勝 リーグ	富田 (1勝2敗)	89	$\begin{bmatrix} 29 - 6 \\ 17 - 11 \\ 12 - 14 \\ 31 - 12 \end{bmatrix}$	43	中津川工 (3敗)	小牧秀則・篠田義貴

両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスで始まる。立ち上がり、富田は⑤桑原の3点シュート、④真鍋の速攻を皮切りに、連続14点をあげ一気にリードを奪う。中津川工はいいリズムでシュートが打てず、わずか6点に終わる。第1ピリオドは富田が29-6と完全に主導権を奪った。

第2ピリオド、富田は⑩大滝がリバウンド、ゴール下のプレー、外への合わせと攻撃の起点となってチャンスを広げる。中津川工は⑨木村の3点シュートやポストでの1対1、⑰桃井の連続3点シュートで対抗する。前半は富田が46-17とリードを広げて折り返す。

第3ピリオド、富田は相手のゾーンディフェンスを攻めあぐみ、得点が思うように伸びない。その間中津川工は⑨木村、⑩鈴木がリバウンドを頑張り、⑬市脇、⑩鈴木のシュートで懸命に追い上げる。第3ピリオドは富田が58-31とリードを保つ。

第4ピリオド、富田は相手のゾーンディフェンスを崩し、⑤桑原のパスに⑩大滝が合わせ、さらに外から⑬山田のシュートが決まり、さらに点差をつける。最後は富田が89-43で勝ち、第3位となって東海新人大会への出場権を勝ち取った。敗れた中津川工もチームの中心④吉村を欠きながらも、⑨木村が攻守の軸となって粘りを見せたが点差を縮めることができなかった。(高木大志)

## 女子の部

<審判>

5位決定戦	岐阜卓商	72	$\begin{bmatrix} 15 - 20 \\ 17 - 14 \\ 13 - 12 \\ 27 - 23 \end{bmatrix}$	69	岐阜総合	小森邦弘・岩永英夫
-------	------	----	--	----	------	-----------

決勝リーグ	岐阜女子 (2勝)	122	$\begin{bmatrix} 27 - 11 \\ 30 - 6 \\ 30 - 6 \\ 35 - 4 \end{bmatrix}$	27	岐阜農林 (2敗)	梶本健一・田中友恵
-------	--------------	-----	---	----	--------------	-----------

岐阜女子オールコートマンツーマン、岐阜農林ハーフコートマンツーマンで始まる。岐阜女子は長身センター⑦ヤシンにボールを集め、着実に得点を重ねる。岐阜農林は⑥林優のミドルシュート、⑮早矢仕のドライブで食い下がる。第1ピリオドは岐阜女子が27-11とリードする。

第2ピリオド、岐阜女子は⑦ヤシンにディフェンスが集まると、今度は⑧谷がインサイドで得点をあげていく。さらに⑤坂田、⑥中村のシュートも決まり、点差は開くばかり。岐阜農林は⑪林マが3点シュートを決めるが、なかなかシュートまで持ち込めない。前半を終わり、岐阜女子が57-17と大きくリードを奪う。

第3ピリオドに入っても、岐阜女子の勢いは止まらない。この試合32得点の⑧谷がインサイドで次々にシュートを決めれば、⑥中村の連続3点シュートが決まり、さらに点差を広げる。岐阜農林は⑦宮崎の速攻が決まるが、相手のディフェンスを破ることができない。

第4ピリオド、岐阜女子はベンチメンバーに交代するが、オールコートプレスディフェンスから⑨常川、⑭大西、⑯西之坊らが次々とシュートを決めていく。最後は徹底したディフェンスと長身を生かしたインサイド攻撃で優位に立つ岐阜女子が122-27の大差で勝利し、決勝リーグ2勝目を手にした。岐阜農林も⑯渡邊のシュートが決まったが単発的な攻撃に終わり、攻めきれなかった。(野々村浩二)

決勝リーグ	高山西 (1勝1敗)	75	$\begin{bmatrix} 13 - 10 \\ 21 - 12 \\ 19 - 8 \\ 22 - 8 \end{bmatrix}$	38	土岐商 (1勝1敗)	棚橋英一・古田 怜
-------	---------------	----	--	----	---------------	-----------

両チームともマンツーマンディフェンスで始まる。第1ピリオドは互いに動きが硬くてターンオーバーが多く、ロースコアのまま試合が進む。高山西は⑧田中がジャンプシュート、ブロックショットと活躍し、⑪野村円も3本のシュートを決めリードを奪う。土岐商は⑤水野葉が2連続の3点シュートを決め離されない。第1ピリオドは高山西が13-10とリードする。

第2ピリオドに入ると高山西はプレスディフェンスを仕掛け、ディフェンスからゲームの流れをつかむ。⑧田中の速攻、④山下の個人技、⑩佐藤のドライブと次々に得点をあげ、一気に差を広げる。土岐商は⑦足立がこのピリオドで4本のシュートを決め離されまいと頑張る。前半を終え、高山西が34-22とリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、高山西は6点差まで詰められたところでタイムアウトを取って息を吹きかえし、⑤野村綾から⑥根津への息の合ったコンビプレーや、⑪野村円のインターセプトからの速攻で一気に差を広げる。土岐商はピリオド序盤には⑥水野知のドライブや、④原の3点シュートで差を詰めたが、その後が続かない。

第4ピリオドに入っても、高山西は流れを渡さず、⑧田中のスピードあふれるプレーや、⑪野村円の活躍で次々と得点をあげ一気に突き放す。速さに優る高山西が75-38で勝利し、決勝リーグ1勝目をあげた。土岐商は⑧小川の速攻などで反撃に出るが、なかなかシュートチャンスを作れなかった。(岩井憲司)

決勝 リーグ	岐阜女子 (3勝)	130	$\begin{bmatrix} 37 - 4 \\ 34 - 10 \\ 31 - 21 \\ 28 - 9 \end{bmatrix}$	44	土岐商 (1勝2敗)	後藤慎二・津田健介

互いにマンツーマンディフェンスでスタートする。岐阜女子は⑦ヤシンの高さを生かしたゴール下シュート、⑤坂田のミドルシュートで得点をあげる。さらに力強いディフェンスで相手のミス誘い、速攻につなげて⑧谷、⑭大西が得点をあげる。土岐商は相手のディフェンスを攻めきれず、得点を伸ばせない。第1ピリオド、岐阜女子が37-4と大きくリードする。

第2ピリオドに入っても流れは変わらず、岐阜女子は⑥中村、④鐘ヶ江、⑤坂田の速攻、⑭大西、⑩石井のドライブで得点を重ねていく。土岐商は⑥水野知、⑦足立のドライブで得点をあげるが、単発的な攻撃に終わる。前半を終わって、岐阜女子が71-14と優位をゆるがないものとする。

第3ピリオド、岐阜女子はメンバーを代えるが勢いは衰えず、⑪磯崎、⑮原のゴール下シュート、⑱森平の3点シュートなどで得点していく。土岐商もオフェンスのリズムがよくなり、④原、⑦足立のミドルシュートで得点していく。第3ピリオドが終わり、岐阜女子が102-35とする。

第4ピリオド、岐阜女子は交代出場の選手もオールコートディフェンスによく走り、相手のミス誘って、⑯西之坊のゴール下シュート、⑪磯崎のミドルシュート、⑩石井の速攻などで次々に得点をあげる。最後は岐阜女子が130-44で勝利して、23年連続24回目の新人大会優勝を勝ち取った。土岐商も⑤水野葉、⑦足立のミドルシュートや、④原の3点シュートで得点するが、点差を縮めることはできなかった。(吉福 司)

決勝 リーグ	高山西 (2勝1敗)	87	$\begin{bmatrix} 26 - 20 \\ 22 - 14 \\ 24 - 18 \\ 15 - 15 \end{bmatrix}$	67	岐阜農林 (3敗)	相宮俊郎・廣瀬卓哉

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜農林は⑥林優の速攻、⑪林マの3点シュートで先手を取る。しかし、高山西は⑩佐藤のドライブ、④山下のポストプレーで逆転する。タイムアウト後、岐阜農林はハーフコート2-3ゾーンディフェンス、高山西はオールコート2-2-1ゾーンプレスに切りかえ、激しい攻防となる。第1ピリオドは26-20と高山西がリードする。

第2ピリオド、両チームともハーフコートマンツーマンに戻す。高山西は⑩佐藤の速攻、⑪野村のミドルシュートで点差を広げる。岐阜農林も④高山の3点シュート、⑪林マのミドルシュートで追い上げる。高山西が48-34と14点のリードを奪って前半を折り返す。

第3ピリオド、高山西は相手のゾーンディフェンスをものともせず、⑪野村がミドルシュートを立て続けに決める。岐阜農林は⑮早矢仕の連続3点シュートなどで追い上げるが、点差は縮まらない。高山西はさらにリードを広げて、72-52で最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、高山西は、⑧田中、⑫田下のミドルシュートなどで加点し、リードを保って87-67で勝利して、決勝リーグ2勝1敗とし、第2位を勝ち取った。高山西は、ミドルシュートの確率が高く安定した試合運びをすることができた。岐阜農林は⑦宮崎の速攻、⑪林マの3点シュートで反撃し、互角の戦いとなったが、点差を縮めることはできなかった。岐阜農林は長屋コーチの熱心な指導が実を結び、初のベスト4進出となった。今大会は決勝リーグ3敗となったが、今後の成長を期待したい。(野々村浩二)